

第3回 学校運営部会参考資料

松尾

長浜市立余呉小中学校…〔余呉小学校＋鏡岡中学校〕は県下初の施設一体型小中一貫教育校（義務教育学校）として、平成30年度開校。義務教育の「おへそ」といわれる、5～7年生（小5、小6、中1）の3年間をたばね、発達・発育状況に応じて、9年間を「432」の3つのステージに分け、きめ細やかに指導。各ステージの最高学年である9年生、7年生、4年生を中心に、様々な形の異学年の交流を通して、優しく、他人を思いやるリーダーを育成する。小規模校
1クラス 22名

準備：統合前年度から小中で研究授業交流をしていた。どんな子どもにしたいか意思統一が大切。ガイドブック作成（日課・制服・規則）を通して共通理解していった。教師が地域の願いを理解し、共通理解していくことが大切。

よさ：①教育課程を柔軟に考えることができる。（9年間のスパンで考える 5～7小中入り混じっての教科担任制 小中の学習内容を重複しないように工夫できる。余剰時間を復習、ICT、ふるさと科地域貢献学習等に充てられる。）

②6年中学校の9年間のゴールを見通し、6年生の授業に中学校の先生が入ってくるので、小から中へのなめらかな移行や小中教師同士の理解が深まっている。

③1年生と9年生は最初年齢差に戸惑っていたが、9年生が1年生を大切にし、1年生は9年生をあこがれのまなざしで見つめ、良い交流ができています。4年生をリーダーにするのはよい。（年齢的に近いが十分リーダーができる。）

課題；①教職員39名（正規25名）小学校の文化と中学校の文化が違うので（滋賀県は小学校採用：中学校採用という形 小学校の学級担任はきめ細やかにすべての教科指導を行う。中学校は教科担任制で子どもの自立を大切に指導している。部活動あり）開校当初はギャップがあった。職員室が同じなので、お互い徐々に理解を深めている。

②6年生の活躍がない。5. 6. 7のもち方が難しい（思春期担任・教科担任多くの目で見守れる）

（対応：前期教頭 横田様 学校長様）

津市立みさとの丘学園…東海3県で初めての義務教育学校として2017年(平成29年)4月に開校した。中1ギャップの解消と英語教育の充実を学校運営の目標に掲げている。ホップ(1~4)ステップ(5~6)ジャンプ(中1~中3)理由:周辺校との兼ね合い 助走に3年間はいらない 後期3年間で力をつける。制服2年間着用よりは、3年がよい。

4. 3. 2も考慮したが実情に合っていたのは、4・2・3であった。

よさ:①1~9年生まで同じ校舎・職員室も同じなので、情報交換や引継ぎが日常的に行われる。家庭事情保護者対応など引継ぎがスムーズ。

②前期児童は上級生9年生の姿を見て6+3年卒業の自分の具体的なイメージを持つことができる。後期:体育祭1~9年全校で行う。上級生が面倒を見ている。中学の先輩後輩ではなく、上級生が小さな子の立場になって誘導(6年生が担う部分ではあるが)大きなイベントは全校で行っているの、1や2年の保護者はありがたいと、ほほえましく見守る。低学年に癒される(休み時間に一緒に遊ぶ 話し相手 相手のことを考える心)

③中学校教員が小学校へ行き、専門を生かして授業を行える。

課題:①カリキュラムマネジメント 効率的な9年間を計画するのに、時間がかかる。学校の独自性を出しすぎると、転出関係で戸惑う。時間割・場所・特別教室の調整が大変 急な変更が難しい。前期45分後期50分 チャイムは始まりで鳴らしている。時計を見て行動(ノーチャイム)しているが、教務が大変

②補助授業の時、空きの教員が見守りはできても、指導ができるかという問題 中学が定期テスト時に静かにしてほしいときの対応(隔壁等事例:英語のリスニング時に運動場から嬌声が上がる。)

(対応:後期課程教頭 永井様)